校友時報
甲子園だより 1
8/9（日）

大阪発ファックス
（新聞部）大越孝生・板倉良子
（写真部）滝百恵・竹島花子・大高留奈

乗車する予定の日本海4号が台風のため運休というハプニングで、急遽東京発新幹線経由で大阪に着いた取材班（新聞部二人・写真部三人）を迎えたのは、蒸し蒸しした三二・六度の暑さ。

この日選手たちは、朝七時前に甲子園球場へ向かい四番乗りで到着、開会式予行に臨んだ。

開会式予行、落ちついた選手団

大阪滞在六日目のホテル暮らしとあって「いく分疲れも出てきている」（戸松部長談）選手たちであったが、予行とはいうものの、憧れの甲子園の土を踏んだときには「気分が引きしまった」（小林央マネージャー談）感じである。

開会式本番でも本校はあとから五・六番目の行進となる。

練習風景 にわか雨の中、短時間で汗びっしょり

県立伊丹（いたみ）北高校グランドより

開会式予行を終えた選手たちは、伊丹市のホテルに帰って一休みしたのち、三時半に再びバスで出発。

ここ数日は、伊丹市の兵庫県立伊丹北高校のグランドで練習をしているが、この日も四時から、和歌山県代表の有力校、智弁和歌山高校に続いて練習を開始した。

練習は一時間半。ランニングから始まってキャッチボール、ノック、トスバッティング、フリーバッティングなど、練習メニューは大体いつも変わらない。

途中三回、にわか雨に見舞われたが選手は平然と、汗を流して練習を続けていた。

時々納谷監督、佐々木コーチの指示の声が聞かれるが、聞こえるのは大部分が、加藤キャプテンの掛け声に応じ合う選手の声。

信頼し合っているチームの雰囲気が感じられた。

バスガイドさんの話 これが甲子園の土！

甲子園球場への行き帰り、練習場への行き帰りのバスのガイドさん。「甲子園から戻ってから車内を一度掃除しましたら、砂も少し掃き出されました。ふと「ああ、これが甲子園の土！」と思いました。」

開会式を観に父母も到着

夕方六時、明日の開会式を観に、選手の父母たち、校長先生、半田・鎌田両先生、それに秋田県高野連会長、金足農高校長等がホテルに到着。

「息子たちのためにどうもありがとう」 成田投手のお母さん

一行の中には成田昇投手のお父さんお母さんも加わっていたが、お母さんは取材班に「息子たちのために遠いところをどうもありがとう。ご苦労さん。」と声をかけてくれた。

一人息子の晴れの舞台に、期待とともに、よいプレーをしてくれるかどうかと心配も広がってくる、とお母さんは話していた。

取材中のNHK記者に大越君が取材

練習会場には、秋田から来ているAKTのカメラマン、読売新聞、それに小林央マネージャーを中心に取材しているというNHKの記者なども顔を見せている。

その記者に本校の大越君が逆取材。「本校選手をどう見ますか？」

「バランスのとれたチームだ。のびのびしているが、引きしめるべきところは十分心得て練習しているようだ。」

FAX. 0185-58-4518

校友時報
甲子園だより 2
8/10（月）

AM11:00

大阪発ファックス
新聞部 大越・板倉
写真部 滝・竹島・大高

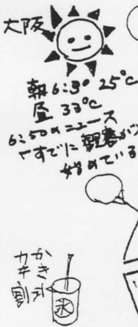
第74回全国高校野球選手権大会
本校チーム晴れやかに行進

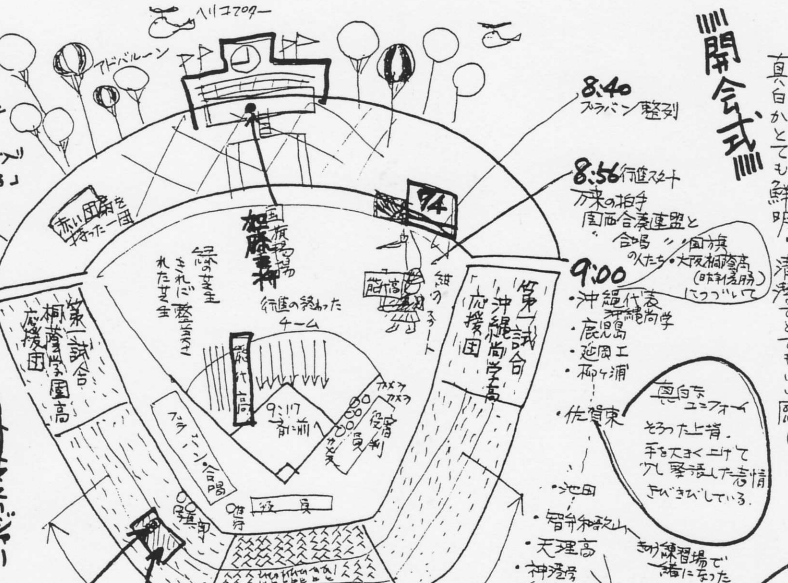
9時12分、能高のプラカードがゲートにのぞくと、本校関係者席では「アッ！来た来た！」の声。

優勝旗を持つ加藤を前列に、成田、村上、菊地の三人が最前列。他チームと比べてもとても大きい。

前の日大山形のグレーのユニフォームのうしろで、本校の真白がとても鮮明。清潔でとてもいい感じ。

開会式


大阪
朝6:30 25°C
昼33°C
6:50のニュース「すでに観客が入り始めている」
かき氷
カキ割
¥200


ヘリコプター
アドバルーン
赤い団扇を持った一団
国旗掲揚
加藤主将
緑の芝生
きれいに整えられた芝生
行進の終わったチーム
能代高
9:17
前に前へ
カメラ
カメラ
役員
審判
審判
ブラバン・合唱
写真部
進行
役員
第一試合
桐蔭学園高
応援団
74
能代高
紺のスカート
第一試合
沖縄尚学高
応援団
屋根有り
8:40
ブラバン整列
8:56 行進スタート
万来の拍手
関西合奏連盟と合唱の人たち
国旗
・大阪桐蔭高（昨年優勝）につづいて
9:00
・沖縄代表 沖縄尚学
・鹿児島
・延岡工
・柳ヶ浦
・佐賀東
真白なユニフォーム
そろった上背。
手を大きく上げて元気溌溂とした表情
きびきびしている。
・池田
・智弁和歌山
・天理高
・神港学
近大付属
京都西
きのう練習場で一緒になった。
地元代表
大きな声援。
星稜
松井投手へ？拍手がひときわ大きい。
9:12
能代入場
能高応援団席
先日亡くなった川島くんのお母さんの写真も見つめる。

小林央マネージャー

これだけの観衆の中で萎縮していたようだが、自分の目から見て立派だった。自分も一緒に行進したかったが、選手たちの力でここまで来られたので感謝したい。

能代高校と呼ばれて感動した。本当に気持ち良さそうだった。

能代高校入場の一瞬

Noshiro

○納谷監督

例のとおり無表情に見える。平常心がそのまま顔にあらわれている感じ。目を細め口を閉じて。

○佐々木コーチ

眩しいものを見るような目。身体を少し斜めにして、これもいつもの佐々木コーチの顔。

○選手たち

観客席からは、目深にかぶった帽子とまともに当たる日射しでよく見えないが、少し緊張の表情。整列後は、加藤、成田、村上ともに、しきりに汗をぬぐっている。

中江大会会長

- 闘う以上勝たねばならぬ。しかし、酷い勝利も、美しい負けもある。

◎鳩山文部大臣（代理）

「野球をとおして、人生の道をつけていけ。」

◎宣誓（柳ヶ浦・清水主将）

正々堂々と試合することを誓います。

スタンドの声

▼加藤キャプテンのお父さん

300ミリの望遠カメラを手に。

「感激、感激。夢でない甲子園です。"夢の甲子園"でなくですナ。」

隆光の行進だすか。いつもの顔。ねぶてんた顔して歩るっていだすナ。」

▼校長先生

「よくぞこの甲子園へやって来た。晴れ舞台で堂々と行進してくれた。」

▼戸松先生（部長）

「他校と比べて立派に見えた。歩き方で誰かすぐわかった。加藤が国旗掲揚台への行き帰りが最後だったのは、ワザとだナ？！」

FAX 0185-54-2230